

南白小の未来をえがく！

令和4年11月2日

府中市立南白糸台小学校

校長 西尾 克人

～子供たちの未来が明るくなるように～

第11号

田植えをしました…5年

5年生は、総合的な学習で「稲づくり」に取り組んでいます。小さな田んぼが校内にあり、学校の立地が「幸が森」だと感じました。地域の方から、実際にプロの技を学びます。「校長先生、実際に体験できる子供は、やっぱり幸せですね」と話をしてくださいました。その通りです。

本物体験活動は、いつまでも記憶に残り、大きな学習につながります。鎌を使い、「ザクッ」という手ごたえを感じる子供たち、南白小の子供たちは本当に幸せだと感じました。



地域の方のありがたさを感じました

4年理科…「とじこめた空気と水」…身近に不思議が

来年（令和5年2月）、東京都小学校理科教育研究会（都小理…都教委の研究認定団体）の研究発表会をします。私がお会の会長をしているため、会場校になりました。

今年から、生活科・理科の研究に取り組んでいます。体験を中心に、自然の不思議さを子供たちには、充分感じてほしいと思っています。教員もよく学び、楽しい学習にしようとしてよく取り組んでいます。南白小の教員の素晴らしい点だと考えています。4年生の実践を紹介します。

問題を見いだす場面

閉じ込めた空気は、柔らかく、圧すと戻ろうとします。ボールなどの弾み方、ビニール袋に空気を閉じ込め、手でポンポンと紙風船のように弾ませています。また、空気でつぼうを使い、「ポン」とスポンジの玉を

とぶします。

閉じ込めた空気がどのようになっているのか、捉えていきます。

「玉がとぶまで、空気の量は同じだ」「圧すと手ごたえがあった」など、気付いたことをまとめていきました。

「閉じ込めた空気は、圧すとどうなるだろうか？」という問題を考えていきました。

結論を得る場面

「空気は圧すと、縮むけれど、戻ろうとする」ということを実験で確かめた子供たちは自然に「水は圧すとどうなるだろうか」と問題を見いだ

しました。

注射器のメモリ20まで水を入れ、手で押していきました。予想は、圧せる子供が多かったのですが「あれ！」「おかしい」「水、固い！」という声が聞こえてきました。

空気との違いに不思議さを感じる場面です。

実験の結果（事実）がすべての理科のおもしろさを感じる学習でした。

子供の自然現象に素直な反応、科学するおもしろさを実感している様子をうれしく思いました。



空気を入れて手でポンポンと



空気をつぼう、何でとぶのかな



空気到手ごたえがある



水は圧せるかな？



結果

予想は次の人数でした

おせない…7人

少しはおせる…20人

けっこうおせる…2人

空気よりおせる…2人

もとのメモリ20と同じだね。